

## 【研究ノート】

# これからの高大接続制度改革の実現手法への試み —中国における AP の導入に注目して—

京都大学 郭 暁博

## 1. はじめに

近年、少子化、高等教育の大衆化に伴って、日本における高等教育機関は入試段階で評価基準の多様化を促進する改革に積極的に取り組んでいる。こういった高等教育の変容の中で、高校と大学を接続する入試制度の役割は、従来の選抜機能から教育的な接続機能へと転換する傾向が見られる。他方、グローバル化がもたらした国際競争の深化に対応するためには、イノベーション能力を持ち、かつグローバル化時代を生き抜く資質を持つ人材を早い段階で獲得することの重要性は論を待たない。そのため、高校と大学の接続に関わる改革は徐々に注目されはじめている。

文科省は「高大接続改革の実施方針等の策定について」の中で、高等学校教育段階、大学入試段階、大学教育段階の3つにおける改革を示している。具体的に、学習指導要領の改訂や「大学入学共通テスト」の導入など様々な改革を実施している。また、平成30年6月5日に、内閣府が提起している Society5.0 の実現に向け、文部科学省では「Society5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会」が開催された。懇談会では、Society 5.0 に向けたリーディング・プロジェクトの1つとして、「文理分断からの脱却：文理両方を学ぶ高大接続改革」が提起されている。高校段階における高度かつ多様な学習内容を、個人の興味・特性等に応じて履修可能とする学習プログラム/コースを WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアムとして創設（高校生6万人あたり1か所を目安に、各都道府県で国公立高校・高専等を拠点校として整備）・海外提携校等への短期・長期留学を必修化し、海外からハイレベル人材を受け入れ、留学生と一緒に英語での授業・探究活動<sup>1</sup>等が、具体的な施策として取り上げられている。

高大接続に関する改革は日本だけではなく、周辺のアジア地域にも急がれている。その中で、近年中国においては、高度な人材を育成するために、高大接続改革に対する試みが多数行われている。中国の高大接続改革に関する先行研究について、小川・小野寺が詳細に紹介するものがある<sup>2</sup>。また、新しく実施されている CAP の事例を取り上げている研究もある<sup>3</sup>。

本稿は多様化している中国の高大接続の事例の中で、アメリカで始まった Advanced Placement（以下、AP）に注目し、その中国における実施状況、特徴及び位置づけを明らかにする。具体的には、まず、中国の大学入学試験制度の種類、特徴及び近年の改革動向を紹介する。そのうえで、中国における AP の導入状況、特徴を検討する。これらを明確にすることが、中国の高大接続に対する理解を深めるだけでなく、今後の日本における高大接続制度への理論的・実践的示唆をもたらすといえよう。

## 2. 中国における大学入学試験制度の改革動向

本章では中国の大学入学試験制度の種類、特徴及び改革動向について、説明する。

中国の大学入学試験制度には「全国統一大学入学試験」と「大学自主募集試験」<sup>4</sup>の2種類がある。「全国統一大学入学試験」の問題点として、一生に一回の試験で大学への進路を決めるといういわゆる一発勝負によって受験生の受験機会が奪われていることが指摘されてきた<sup>5</sup>。また学力のみを重視するために「詰め込み教育」に陥る恐れがあった。受験機会の少なさ、「詰め込み教育」等の問題を改善し、かつ大学の自主権を拡大する目的で、「大学自主募集試験」が実施されるようになった。「大学自主募集試験」についても、試験が高校卒業の半年前に行われることが多く、卒業までの時間が無駄にされるという批判がある。くわえて、「大学自主募集試験」の試験内容を見てみると、「全国統一大学入学試験」と同様に結局は学力を重視する傾向がある。制度的に整備されないままに各大学が独自の評価基準を定めた結果、その規模の拡大を妨げているとも考えられる。

政府は「全国統一大学入学試験」と「大学自主募集試験」の課題を改善するため、『国家中長期教育改革と発展綱要（2010－2020）』（以下、『綱要』と省略）の中で、試験募集制度改革という項目を立て、改革の方針を明確に示した。『綱要』で取り上げた項目をもとに、具体的な大学入学試験制度の改革が展開されるようになる。

第十八回全国人民代表大会（2012年）では『綱要』をもとに大学入学試験制度に対する具体的な見直しが行われ、「中共中央による若干の重大問題の改革を全面に深化することに関する決定」（以下、「決定」）において大学入学試験制度の改革を推進することが強調された。その方針は「全国統一大学入学試験」の欠点を徹底的に解決することである。具体的に、1）評価対象となる試験成績に対する複数選択権を学生に与えること、2）高等教育機関の自主募集をさらに促進すること、3）政府が指導・助言し、専門機構が試験を組織し、社会第三者セクターが参加・監督するというメカニズムを整備することである<sup>6</sup>。

「決定」を受けて、教育部により2014年から高校生を全面的に評価する制度を目指す、新しい大学入学試験制度を導入することが表明された。今回の改革は制度改革が進んでいる上海市と浙江省において、先に施行対象として改革計画が取り込まれるようになる。

上海市は2014年に公布された「国务院大学入試制度改革を深めることに関する実施意見」<sup>7</sup>をもとに、「上海市における高等教育機関の試験募集総合改革を深めることの実施方案」を実施することになる。今回の制度改革は、従来の「素質教育」<sup>8</sup>を維持したうえ、生徒の全面的な育成を図ることをねらいとされる。改革を通して、従来の「詰め込み教育」を改善し、素質教育を深め、生徒の成長により多くの機会を与えることが期待される。その後、2016年に遼寧省、広西チワン族自治区、貴州省が、2017年に北京市、天津市、山東省、海南省、河南省が、2018年に広東省、江蘇省、重慶市、河北省、四川省、湖北省、吉林省、山西省、黒竜江省、安徽省、江西省、湖南省、福建省、内モンゴル自治区、青海省、チベット自治区が改革を行っている。2019年に陝西省、雲南省、甘粛省、寧夏回族自治区が改革を行う予定である<sup>9</sup>。

今回の大学入学試験の制度改革にはいくつかの変化が見える。まとめると、1つ目は「全国大学入学試験」において外国語の占める割合が縮小されることである<sup>10</sup>。今までより優秀な生徒を送り出すために、国語を重視し、より伝統的な文化・風習の学習を充実することへと移行することが国

の政策として取り上げられるようになったと思われる。二つ目は「高校学業水準試験」と「全国統一大学入学試験」を明確に分けることである。そのうち、「高校学業水準試験」には「合格性試験」と「レベル試験」の2種類が設置される。「合格性試験」は高校カリキュラムの基礎科目を内容とされ、試験に合格することが高校卒業証書の授与条件とされている。「レベル試験」は高校カリキュラムの基礎科目とレベルアップ科目をもとに実施する。思想政治、歴史、地理、物理、化学、生命科学の6つの科目には「合格性試験」と「レベル試験」を設置する。高校生はその中の3つを選択し、受験することができる。国語、数学、外国語の3科目には「合格性試験」しか設置しない。「全国統一大学入学試験」に参加する学生は「全国統一大学入学試験」の成績を「合格性試験」と入れ替えることができる。これらの試験の分立には生徒の基礎学力を確保するとともに、大学入学試験のみを重視する現状を改善する工夫が見える。3つ目は生徒により多くの受験機会と選択権を与えることである。国語、数学の科目が「合格性試験」と「全国大学入学試験」の両方に受験することができるようになったことから、生徒の受験機会が増加させようとする意図が見える。加えて「合格性試験」と「レベル試験」の設定により、生徒が自分の興味関心、学習レベルに応じて自主的に受験科目を選択することができるようになった。一斉教育ではなく、生徒の個性に相応しい教育を行うことは評価されることであろう。さらに、高大接続をよりスムーズに実現する効果も同時に期待される。「大学自主募集試験」は「全国統一大学入学試験」の終了後に実施されるようになった。

こうした大学入学試験制度に対する改革に加え、中国においては多数の高大接続プログラムも試行されている。次章ではその中の1つであるAPに注目し、それが中国における実施状況、特徴及び位置づけを明らかにする。APに注目する理由として、大学の入学段階においては、生徒の学習意欲や選択する分野への適性に対する判定が有効である<sup>11</sup>と評価されており、中国の大学入学試験制度改革が求める目標と合致しているからである。

### 3. 中国におけるAPの実施状況と特徴

中国における高大接続の仕組みとしては1) 個別の高校において大学教員が出向いて授業を行う「出前授業」、2) 大学の内部を高校生に対して公開するオープンキャンパス、そして3) 実際に入学を希望する学生に対する入学試験の3つが中心である。

中国における高大接続は1990年代からすでに始まっている。その代表的な例として南京市の金陵中学で行われた高大接続プログラムが挙げられる。金陵中学は1996年から2001年にかけて、南京大学、東南大学、浙江大学、上海交通大学、華中科技大学、西南交通大学等の中国国内のトップレベルの大学と連携し、従来の全国統一大学入学試験をもとにした評価手段の代わりに、生徒の総合的な能力を評価する入試方法を取り入れていた<sup>12</sup>。また、上海交通大学では、2003年から上海交通大学附属中学、上海中学等の高校と連携し、高校に大学の授業を提供し、優秀な生徒に大学の授業を体験させる高大接続プログラムもある<sup>13</sup>。これらの高大接続プログラムはいずれも個別の高校と個別の大学が連携する個別の接続であった。個別の大学と個別の高校が連携する小規模の高大接続ではなく、大規模に実施する高大接続プログラムとしては、2011年に北京市の教育委員会が、北京市内の八つの高校と複数の大学の連携を促進したものが挙げられる<sup>14</sup>。また中国教育学会が2014年3月18日から実施し始めたChinese Advanced Placement (CAP) もある<sup>15</sup>。

こうした中国国内の高大接続プログラムの進行と同時に、国際化、グローバル化の潮流の中で、海外の高大接続プログラムも中国で受け入れられるようになってきている。その中の代表例はアメリカのAPであり、カレッジ・ボード（College Board、CB）より大規模に推進、その後、中国の全国に拡大してきている。以下ではまず中国におけるAPの実施状況、特徴を明らかにする。

APが2014年から中国で積極的に実施されるようになった。2018年8月までにAP実施校は合計276校に上っている。実施科目を見てみると、最も多いのは微積分学ABが225校、その次はミクロ経済学が210校、微積分学BCが199校で第3位となっている。最も少ない科目はラテン語、イタリア語・文化、ドイツ語・文化である（表1）。APを実施している高校はインターナショナルスクールや公立学校の国際部が多数見られる。例えば、清華大学附属中学校の国際部<sup>16</sup>が、海外の大学に生徒を送り出すために、①中国語・文化、②英語・構成、③英文学・構成、④化学、⑤物理1・2\*、⑥世界史\*、⑦アメリカ史、⑧マクロ経済学、⑨微積分学AB、⑩微積分学BC、⑪統計、⑫コンピューターサイエンスA\*、⑬コンピューターSCI原理<sup>17</sup>の13科目を実施している。

表1.中国におけるAP授業の実施状況（2018年）

番号	科目	実施学校数	番号	科目	実施学校数	番号	科目	実施学校数
①	芸術歴史	38	⑮	フランス語・文化	8	㉔	リサーチ	4
②	生物	124	⑯	ドイツ語・文化	1	㉕	セミナー	6
③	微積分学AB	225	⑰	比較政治・政策学	21	㉖	物理学B	101
④	微積分学BC	199	⑱	アメリカ政治・政策学	17	㉗	スペイン語	11
⑤	化学	173	⑲	人文地理学	75	㉘	統計	192
⑥	中国語・文化	54	㉑	イタリア語・文化	0	㉙	スタジオアート：2-Dデザイン	43
⑦	コンピューター	97	㉒	日本語・文化	4	㉚	スタジオアート：3-Dデザイン	25
⑧	コンピューターSCI原理	31	㉓	ラテン語	0	㉛	スタジオアート：絵画	42
⑨	マクロ経済学	194	㉔	音楽原理	20	㉜	アメリカ史	115
⑩	ミクロ経済学	210	㉕	物理学1	161	㉝	世界史	97
⑪	英語（言語と構成）	121	㉖	物理学2	101			
⑫	英語（文学と作文）	81	㉗	物理学C（電気と磁気）	109			
⑬	環境科学	73	㉘	物理学C（力学）	134			
⑭	ヨーロッパ史	31	㉙	心理学	107			
							合計（学校数）	276

College Board, *AP Course Audit* <sup>18</sup>より筆者作成。

APの受験について、米国国籍でない生徒のAP試験受験者数は2007年の35,098人から、2017年の119,499人までに増加している。数多くの米国国籍でない生徒が米国の大学に進学するための評価資料としてAPを活用していることがインタビュー調査より明らかになった<sup>19</sup>。また、AP試験の実施場所として、2018年8月までに、北京市、上海市、天津市、重慶市の4直轄市、16地域の合計25市がある<sup>20</sup>（表2）。

一方、AP授業を担当する教員を育成するため、AP教員研修がCBにより設置されている。AP教員研修は1、2日間のワークショップ（年に数回）と夏季研修（30時間の研修、年に1回行う）の2種類がある。ワークショップの特徴として、高校教員だけに向けたものではなく、学校の関係者（管理職、コーディネーター等）にも研修を行うことである。夏季研修の特徴として、授業開発のみならず、教授法の検討、授業とアウトカムの関連性に関する学習に注目することが挙げられる。中国におけるAPの教員研修の実施状況を見てみると、APワークショップを年に数回大学または高校で行っている。2018年11月3、4日に、上海の建平中学校<sup>21</sup>でAPワークショップを行う予

定である。実施科目は①生物学、②AP 微積分学 AB・AP 微積分学 BC（新任教員向け）、③AP 英語・言語・文学（新任教員向け）、④AP 環境科学、⑤AP マクロ経済学・AP ミクロ経済学（新任教員向け）、⑥AP 物理学 1・AP 物理学 2、⑦AP 統計、⑧AP コーディネーターの 8 科目である<sup>22</sup>。

表 2. 中国における AP 試験の実施場所（2018 年）

	省・直轄市	省都（市）	市		
①	北京市				
②	上海市				
③	天津市				
④	重慶市				
⑤	安徽省	合肥市			
⑥	江西省	南昌市			
⑦	河南省	鄭州市			
⑧	四川省	成都市			
⑨	湖南省	長沙市			
⑩	湖北省	武漢市			
⑪	陝西省	西安市			
⑫	甘肅省	蘭州市			
⑬	福建省	福州市			
⑭	黒竜江省	哈爾濱市			
⑮	吉林省	長春市			
⑯	遼寧省	瀋陽市			
⑰	広東省	広州市			
⑱	浙江省	杭州市	寧波市		
⑲	山東省	済南市	青島市		
⑳	江蘇省	南京市	蘇州市	常州市	江陰市
合計	20地域				25市

College Board, *AP in China* より筆者作成。

中国の大学における AP に対する単位認定について、北京大学、清華大学、北京外国語大学、北京言語大学の 4 大学がある<sup>23</sup>。認定対象は中国の生徒ではなく、中国籍ではない国際学生である。活用方法として、入学評価基準の 1 つとしてされている。

#### 4. 終わりに

本稿は中国における AP の実施状況及び特徴について検討した。中国においては 2014 年からの新しい大学入学試験制度の実施により、本格的な高大接続改革が進められるようになった。そのうち、AP に対する急速な受け入れは中国の高大接続が国際化・グローバル化していると見ることができる。特に生徒の国際的視野や問題解決能力の育成、自主的な学習意欲の向上について、AP が中国高大接続制度改革の目標と合致するところがある。他方、数多くのインターナショナルスクール、公立学校の国際部で実施されていることから、AP は中国の生徒が海外の大学にアクセスするための有効な手段としても評価できよう。さらに、中国籍以外の国際学生が中国の大学に入学する際の評価基準の 1 つとしても活用されていることがわかる。これらのことから、AP には中国において、新たな高大接続制度の試みとして新しい時代に求められる人材の育成が期待されている。

一方、課題として、中国の大学における通用性や、中国籍の生徒に対する単位認定が取り上げられる。また、大学入学試験制度が改革される中、アメリカの AP が中国の学習指導要領との整合性も検討しなければならない。さらに、より全国規模で実施・拡大するためには、教育委員会からの継続的な支援が必要であると考えられる。最後に、全国規模で AP と類似する高大接続授業を提供するためには、教員の質を保証しなければならない。

上記を踏まえ、日本においては Society 5.0 が提起している生徒の多様かつ個性に応じた学習や

海外提携校等への短期・長期留学の必修化、海外からハイレベル人材を受け入れ等の需要は、中国と類似性があると考えられる。今後、国際化・グローバル化が求められる中、日本の学生の国際視野・問題解決能力の育成や自主的な学習意欲の向上、留学生の受け入れ等を実現するためには、中国で実施している AP のような高大接続の起動が日本でも想像できよう。それがどのような形式で展開されていくのかについては、注目に値するであろう。引き続き考察していきたい。

※本研究は、科学研究費 JSPS（平成 29 年度）研究活動スタート支援 [課題番号：17H06781] の研究成果の一部である。

註

- 1 文部科学省「Society5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/society/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/society/index.htm)（最終確認：2018 年 8 月 31 日）
- 2 小川佳万,小野寺香等『東アジアの高大接続プログラム』広島大学高等教育研究開発センター, 2012 年。
- 3 郭曉博「CAP (Chinese Advanced Placement) プログラム担当教員の養成制度の現状と課題」『京都大学大学院教育学研究科紀要』62 号, 2016 年,185 頁、189 頁を参照。
- 4 「大学自主募集試験」は 2003 年から実施されており、各大学がそれぞれに求める人材を選抜する大学入学試験制度である。
- 5 鄭曉江「又是質疑高考時」『粵海風』広東省文学芸術界連合会, 2002 年, 38-40 頁。
- 6 「中共中央による若干の重大問題の改革を全面に深化することに関する決定」中国共産党第 18 期中央委員会第 3 回全体会議, 2013 年。
- 7 國務院「國務院大学入試制度改革を深めることに関する実施意見」2014 年。
- 8 素質教育は「道德」、「知識」、「体育」、「芸術」、「労働」の 5 つの素質を持つ人材を育成する教育のことを指す。
- 9 中国教育在線 <https://www.eol.cn/html/g/gkgaige/>(最終確認：2018 年 8 月 31 日)
- 10 150 点満点で設定されていた外国語試験は、2014 年の改革により 100 点満点まで下げられており、年に 2 回に行うことになった（改革前は年に 1 回）。
- 11 College Board, *The 10th Annual AP Report To The Nation*.  
<http://media.collegeboard.com/digitalServices/pdf/ap/rtn/10th-annual/10th-annual-ap-report-to-the-nation-single-page.pdf>(最終確認：2018 年 8 月 31 日)
- 12 中国大学先修課程 (CAP)「中国大学先修課程：大学先修課的中国試水」  
<http://www.csecap.com/NewsDetail.aspx?nid=65>(最終確認：2018 年 8 月 31 日)
- 13 同上。
- 14 8 つの学校は人民大学附属高校、北京四中、北京十二中学、北京十一学校、北京師範大学附属高校、北京師範大学第二附属高校、清華大学附属高校、広渠門中学である。筆者が 2014 年 9 月に、そのうちの 1 つの学校に対し、インタビューを行った。面談対象は校長である。
- 15 CAP ホームページ  
<http://www.csecap.com/Index.aspx>(最終確認：2018 年 8 月 31 日)
- 16 清華大学附属中学校は 1915 年に創立された国立清華大学の附属学校である。2009 年に清華大学附属中学校の国際部が設立された。<http://www.this.edu.cn/homepage/info.do?columnId=883>(最終確認：2018 年 8 月 31 日)
- 17 高校一年生 (K10) が教員の推奨に基づき、\*付きの科目の 1 つまたは 2 つを受講することが可能である。
- 18 College Board, *AP Course Audit*.  
<https://apcourseaudit.inflexion.org/ledger/search.php>(最終確認：2018 年 8 月 31 日)
- 19 カレッジ・ボードのアジア・パシフィック地域の事務局長の Sonny Lim さんより。
- 20 College Board, *AP in China*.  
<https://international.collegeboard.org/prepare-to-study-in-the-us/ap-in-china-mandarin>(最終確認：2018 年 8 月 31 日)
- 21 上海建平中学校は 1944 年に創立した上海市の公立学校である。在学生徒数は 1600 人で、45 クラスがある。教職員数は 149 人 (教員 138 人、職員 11 人)。博士学位を有する教員は 3 人、修士学位を有する教員は 27 人。上海建平中学校 HP <http://www.jianping.com.cn/index.php?a=lists&catid=11>(最終確認：2018 年 8 月 31 日)
- 22 College Board, *2018 AP FALL WORKSHOP IN SHANGHAI, CHINA*  
<http://eventreg.collegeboard.org/events/2018-ap-fall-workshop-in-shanghai-china/event-summary-b2b8ac37a3c44953a0696d63f23a24a1.aspx>(最終確認：2018 年 8 月 31 日)
- 23 College Board, International.  
<https://international.collegeboard.org/programs/ap-recognition/search-ap-policies-by-international-university>(最終確認：2018 年 8 月 31 日)

## An Attempt to Realize the Future Reform of Articulation Between Upper Secondary Schools and Universities: Focusing on the introduction of AP in China

Xiaobo GUO

This paper focuses on Advanced Placement (AP) of the United States in the case of diversifying articulation between upper secondary schools and universities in China. The study will clarify the situation of AP's implementation, its characteristics and positioning in China by first introducing the types, characteristics and the recent trend of the Chinese University's entrance examination system as well as considering the introduction and characteristics of AP in China.

As a result, AP is expected to foster human resources required for a new era as an attempt of a new articulation between upper secondary schools and universities in China. The fact that AP is being implemented by many international schools and international departments of public schools shows that AP is being positioned as an effective means for accessing universities overseas. In addition, it can be seen that international students are also used as one of the evaluation criteria when entering Chinese universities.

On the other hand, the applicability of AP in Chinese universities and credit certification for Chinese students are taken up as issues. Secondly, AP must consider the fusion with the curriculum guidelines of China in the new university entrance examination system. Furthermore, in order to implement and expand on a nationwide scale, continuous support from the Board of Education is also necessary. Finally, in order to provide articulation between upper secondary schools and universities for programs similar to AP on a nationwide level, the quality of the faculty must be guaranteed and will be considered as topics for future tasks.